

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：33702

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04886

研究課題名（和文）オーラルヒストリーに関する伝統・文化教育の効果を高めるデジタルアーカイブの研究

研究課題名（英文）A study of digital archives that enhance the effectiveness of tradition and cultural education on oral history

研究代表者

谷 里佐 (Tani, Risa)

岐阜女子大学・公立大学の部局等・教授

研究者番号：10440554

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：伝統・文化教育の教材利用の観点から、オーラルヒストリーのデジタルアーカイブに必要とされる資料内容とその構成方法について、白川郷和田家当主のオーラルヒストリーのデジタルアーカイブの実践により検討した。作成した教材『和田先生と学ぶ白川郷和田家』の教員・子どもの利用結果により、オーラルヒストリーに込められた話者の思いや体験談が現地学習の事前・事後学習に有効であること、印刷メディア（冊子）にデジタルメディア（動画データ等）をリンクさせるオーラルヒストリーの構成モデルを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、個人や組織の経験を聞き取る記録として資料的価値が高いとされるオーラルヒストリーのデジタルアーカイブについて、伝統・文化教育の教育効果を高める観点から、必要とされる資料内容と構成を実際のデジタルアーカイブ教材の作成により明らかにした。オーラルヒストリーのこれまでの研究に関する教育（教材）に関する実践例となり、研究成果は、今後のオーラルヒストリーのデジタルアーカイブ教材への適用が期待できる。

研究成果の概要（英文）：From the viewpoint of the use of teaching materials for tradition and cultural education, I examined the contents of materials required for the digital archive of oral history and how to construct them by the practice of the digital archive of oral history of the head of Shirakawa-go Wada. I clarified the composition model of the oral history which linked the digital media (video data, etc.) to the printed media (booklet) that the thoughts and experiences of the speaker and the experience story put in the oral history were effective for the pre-and-post-study of the local study by the result of the use of the teacher and the child of the teaching material "Shirakawa-go Wada family to learn with Wada teacher" which I created.

研究分野：デジタルアーカイブ

キーワード：伝統文化 デジタルアーカイブ オーラル・ヒストリー 教材開発 教材

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

伝統・文化教育の教材について、文部科学省は、「先人の生き方、自然、伝統や文化などといった人に感動を与える美しさや強さを浮き彫りにした題材を活用することが必要」(中教審・初等中等教育分科会第55回「教育内容に関する主な改善事項」)としている。個人や組織の経験や思いを聞き取り記録するオーラルヒストリーは、その点で、伝統・文化教育の教材として適している。さらに、オーラルヒストリーは、映像記録により、話者の身振り手振りといった非言語的な情報伝達を可能にし、また、語り手の口調や言葉のニュアンスなどを文字では表現し難いことに起因する、オーラルヒストリーの文字起こしを中心とした記録への信ぴょう性、正確性への懸念も一部ではあるが解消している。しかし、オーラルヒストリーを、伝統・文化教育の教材として、首記のニーズに応じたものとするには、映像記録のみでなく、デジタルアーカイブの活用が必要であると考えた。デジタルアーカイブとは、デジタル技術を用いて作成されたアーカイブであり、有形無形の文化資源などを記録し、保管、蓄積し、活用する、資料の収集(記録)から活用までのプロセスを含めたものである。

オーラルヒストリーを、伝統・文化教育の教材として機能させるためには、話の映像化から発展させ、どんな資料を収集し、保管し、活用させるか、というプロセスを含めて開発することが必要である。

2. 研究の目的

伝統・文化教育の教材として、オーラルヒストリーの映像記録以外に必要な資料内容について、教材を利用する教員のニーズ調査・分析から明らかにし、研究事例として、世界遺産白川郷和田家当主のオーラルヒストリーのデジタルアーカイブを行い、教材の記録、保管と構成方法についてまとめる。

3. 研究の方法

(1) 教員への調査と分析

オーラルヒストリーの映像記録について、研究事例である和田家当主のオーラルヒストリーを実際に視聴した教員に対し、伝統・文化教育の教材としての観点から、オーラルヒストリーの映像記録を利用した学びの有効性や、映像記録以外に必要なとされる資料内容(要素)について、調査を行い分析する。

(2) 和田家当主オーラルヒストリーのデジタルアーカイブによる伝統・文化教育の教材作成

和田家当主オーラルヒストリーのデジタルアーカイブを行い、伝統・文化教育の教材を作成する。作成した教材は、白川郷和田家での現地学習を行う教員、児童生徒に利用提供し、アンケート調査および和田家当主へのヒアリングにより、教材の記録、保管と構成方法を検証する。

4. 研究成果

(1) 教員免許状更新講習(通信教育)「伝統文化」受講生への調査

岐阜女子大学の教員免許状更新講習(通信教育)「伝統文化」の平成29年度の受講生の内、オーラルヒストリーに関する課題を選択した182名(保育士13名、保育教諭2名、教諭138名、ほか養護教諭、実験助手など)に、「和田家当主オーラルヒストリー」の映像記録(DVD)を視聴したことを前提に、オーラルヒストリーのデジタルアーカイブを伝統・文化教材として利用するとき、話者の映像記録以外にどのような資料が必要か、という観点で記述されたものから、要素(資料情報)についての記述を抽出し、記述中の出現回数が5以上のものを、5つのカテゴリーにまとめた。併せて、オーラルヒストリーの映像記録を利用した学びの利点と問題点について、自由記述された内容を検討した。

話の内容に関する資料類

話の内容の文字起こしや言葉の説明(28)、話の内容に関する建物などの写真や図(78)、話の歴史的背景に関する資料(16)、話の内容に関する実物(12)、話者のプロフィール(5)

授業で利用できるプリントやワークシート類

補足説明や解説のプリント、テキスト類(30)、ワークシート(13)、

調べ学習ができる資料類

生徒が調べ学習ができる資料類(24)、比較できる資料(7)

教師が授業資料作成に利用できる資料類

教師がパワーポイントなどの作成に使える素材(6)

話の内容に関する二次情報

位置情報や環境情報など(50)、著作権情報(7)

括弧内は出現回数。

出現回数4以下には、「3Dなどバーチャルな資料」(2)、「話者の電話番号や住所」(1)、「Q&A」(1)、「キーワードリスト」(1)、「映像だけでよい」(1)があった。

次に、オーラルヒストリーの映像記録を利用した学びの利点と問題点について、自由記述された内容を検討した。利点より問題点の方に多い記述があったものは、29名あったが、他は、利点に関する記述が多くを占めた。

利点に関する記述の主なものは以下の通りである。

- ・地域の人から話される内容はとても真実味があり、親しみやすいので子ども達に受け入れやすく高い学習効果があると思う。
- ・DVD 視聴し感じたが、地域の伝統、文化の理解として不可欠であるそこに暮らしてきた人々の営み、歴史的な背景の把握ができる。特に「白川郷」の説明は、とても分かり易く、学生達も関心を抱く内容であると考え
- ・地域の人のお話を教育利用するにあたっての利点は何といっても思いが子ども達につたわることだろう。その伝統を守ってきた苦労などのエピソードを交えながら子ども達も保存などの必要性を感じることができる。

利点の中では、話者の生の話の重要性への指摘が多く、問題点については、話者の言葉遣いや話者の話の内容の正確性に関すること、話者の肖像権等に関する指摘が主であった。

(2) 和田家当主オーラルヒストリーのデジタルアーカイブによる伝統・文化教育の教材作成

(1)の結果を踏まえ、和田家当主オーラルヒストリーのデジタルアーカイブを用いた伝統・文化教育の教材作成を行った。

教材の保存

和田家当主オーラルヒストリーのデジタルアーカイブの教材の保管は、統合文書マネジメントシステム ECM (Enterprise Content Management) を用いた。ECM は、情報資産 (コンテンツ) をデジタル化し、利用・検索ができるようにするために、映像や音声、文字情報などを一元的に管理し蓄積するシステムである。このシステムを利用した i2D- ECM に独自メタデータ項目を組み込んだフォルダ形式のデータベースへの登録、保管を行った。(図 1)

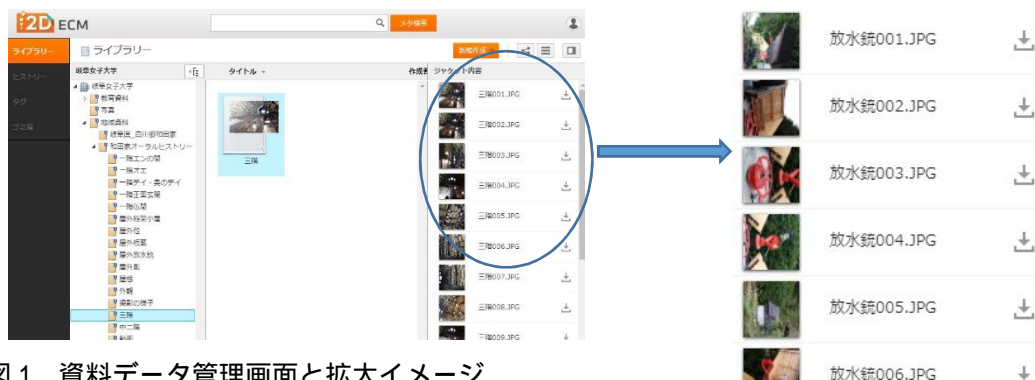


図 1 資料データ管理画面と拡大イメージ

伝統・文化教育の教材『和田先生と学ぶ白川郷和田家』

『和田先生と学ぶ白川郷和田家』は、話の内容に関する資料、授業で利用できる資料、調べ学習ができる資料、教員が授業資料作成に利用できる資料を柱に構成し、各項目から和田氏のオーラルヒストリーの映像へとリンクさせた。

表紙には、和田家主屋の外観のイラストを入れた。絵葉書などのモチーフにもなる城山展望台からの視点や主屋入口側の視点とは異なる視点でのイラストとし、表紙から、和田家をじっくり見ることへ繋げる意味を込めた。

白川郷和田家について、和田家の外観から入り内部へ、そしてまた外へと、実際の見学者が動くオーソドックスな形の順に構成した。和田氏の話の映像へは二次元コードでリンクしている。(図 2) また、白川郷や和田家について学ぶ際に、調べ学習のテーマなどとして取り上げられることが多い観点について、5つのギモンとしてまとめた。

最後に、調べ学習や教員の授業資料作成に利用できるデータを必要に応じてダウンロードできる Web サイトや PDF データへリンクする二次元コードを入れた。(図 3)



図 2 和田家についてのページ



図 3 調べ学習のページ

現地学習を行う教員、児童生徒の利用アンケート結果

白川郷での現地学習を予定している白川郷のある岐阜県大野郡白川村内外の小学生および教員、その他大学生など125名(教員29名・小学生96名)に実際に教材を利用した後で、アンケート調査を行った。

教員アンケートでは、教材の利用場面、文章量などが適量か、冊子と映像の学習効果などについて調査した。教材の利用場面は和田家についてのページは事前学習が最も多く(17名)、調べ学習のページは事後学習が最も多かった(13名)。本教材のページ数は27ページ、サイズはA4、和田氏のオーラルヒストリーの映像は、1つのまとまりで原則2分以内、最長でも3分以内でまとめた。この内容について、文章の量、写真の量、動画の数、冊子サイズ、ページ数が適量であるかについては、どの項目も「適切」との回答が7割以上を占めた。冊子と話の映像データの学習効果については、冊子・映像ともに事前・事後学習での学習効果については「ある」とされた。

児童生徒アンケートでは、教材をいつ使ったか、和田氏の映像を視聴したかの他、教材を使った感想を聞いた。

教材は、白川郷に行く前(59名)、行く途中(バスや自動車の中)(0名)、白川郷(現地)(11名)、白川郷に行った後(42名)、村民学の授業(27名)、その他(9名)であった。事前・事後学習で利用したという教員の結果と同様である。話の映像を視聴したかについては、聞いた(70名)、聞かなかった(25名)、わからない(1名)であった。聞かなかったと回答した児童生徒は、教員より、学校の情報環境や授業時間の関係により利用できなかったと報告があった小学校の生徒たちである。

教材を使った感想では、以下のように、わかりやすい、(白川郷に)行きたくなかったなどが多かった。

- ・本を読んでみて、写真とか文しょうがくわしく書いてあって、白川ごうにいったとき、いまこの家のここにいるんだなど写真がついていたのでよくわかりました。
- ・文章の上や下に文章とかかわった絵がのっててすごく分かりやすく、白川ごうへどんどん行きたいという気持ちが強くなった。

その他では、放水銃は、現地では普段見ることができないが、動画で見ることができてよかったという感想がみられ、現地で見ることが難しいものに印象付けられていると感じた。

許諾について

本研究で開発、利用した資料データは、すべてクリエイティブ・コモンズ・ライセンスのCC-BY4.0によりオープンデータとして提供できるよう許諾の処理を行った。岐阜女子大学のクレジットの明記は必要であるが、調べ学習での利用はもちろん、教員の授業資料作成にも自由に利用ができる。教育利用においては、著作権法で自由利用が認められる場面も多いが、より自由な利用提供のためには、CCライセンスなどの適用が必要である。

(3) まとめと今後の課題

伝統・文化教育の教材の観点でオーラルヒストリーのデジタルアーカイブについて、映像記録による、人の思いや生の声の効果と、それらとリンクさせ、話の内容に関する資料、授業で利用できる資料、調べ学習ができる資料、教員が授業資料作成に利用できる資料などのデータを構成することにより、事前・事後学習への利用がしやすく、児童生徒の現地への興味関心が高められることが分かった。

とくに、教員へのアンケートでは、現地に行く場合の事前事後学習として役立つという意見や文章と映像の相乗効果への評価が得られたが、収録内容のさらなる充実が必要との意見もみられた。伝統・文化教育の教材として必要な内容は多く、収録内容の充実については、今後の課題としたい。

(謝辞)

本研究を進めるにあたり、世界遺産白川郷和田家当主和田正人氏に、研究の進め方をはじめ、オーラルヒストリー記録、教員や児童生徒へのアンケート調査の実施に至るまで、多大なるご指導、ご協力をいただきました。また、伝統・文化教育教材『和田先生と学ぶ白川郷和田家』作成にあたっては、さまざまにご支援いただきました和田家のみなさまに感謝致します。「和田家当主オーラルヒストリー」の記録にあたっては、岐阜女子大学文化創造学専攻アーカイブ専修(現デジタルアーカイブ専攻)の学生に協力いただきました。ありがとうございました。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 谷里佐	4. 巻 34
2. 論文標題 オーラルヒストリーに関する伝統・文化教育の効果を高めるデジタルアーカイブ(1)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育情報学会年会論文集	6. 最初と最後の頁 126-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷里佐・櫛彩見・加治工尚子・林知代・加藤真由美・後藤忠彦	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 デジタルアーカイブのデータ、情報、知識、創造としての活用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ研究報告	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷里佐	4. 巻 12
2. 論文標題 白川郷和田家オーラルヒストリー資料の管理と活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ研究会論文集	6. 最初と最後の頁 99-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷里佐・佐藤正明・加藤真由美・櫛彩見	4. 巻 vol.1
2. 論文標題 白川郷和田家デジタルアーカイブにおける地域資料の継続的な記録と保存	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 47-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷里佐	4. 巻 33
2. 論文標題 テキストマイニングによる「伝統文化オーラルヒストリー」デジタルアーカイブの利用効果に関する分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本教育情報学会年会論文集	6. 最初と最後の頁 140-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷里佐	4. 巻 3(1)
2. 論文標題 地域文化資料の選定評価項目の観点からみたクリエイティブ・コモンズ・ライセンス適用の課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ研究所テクニカルレポート	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷里佐	4. 巻 35
2. 論文標題 オーラルヒストリーに関する伝統・文化教育の効果を高めるデジタルアーカイブ(2)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育情報学会年会論文集	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷里佐	4. 巻 13
2. 論文標題 オーラルヒストリーを用いたデジタルアーカイブの 伝統・文化教育への利用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ研究会論文集	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 谷里佐
2. 発表標題 オーラルヒストリーに関する伝統・文化教育の効果を高めるデジタルアーカイブ（1）
3. 学会等名 日本教育情報学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷里佐
2. 発表標題 白川郷和田家デジタルアーカイブにおける地域資料の継続的な記録と保存
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷里佐
2. 発表標題 テキストマイニングによる「伝統文化オーラルヒストリー」デジタルアーカイブの利用効果に関する分析
3. 学会等名 日本教育情報学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷里佐
2. 発表標題 オーラルヒストリーに関する伝統・文化教育の効果を高めるデジタルアーカイブ（2）
3. 学会等名 日本教育情報学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 櫛彩見・加藤真由美・加治工尚子・佐藤正明・林知代・谷里佐・又吉斎・遠藤宣子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所	5. 総ページ数 191
3. 書名 デジタルアーカイブの資料収集・撮影・記録の基礎	

1. 著者名 井上透・三宅茜巳・林知代・櫛彩見・谷里佐・久世均・加藤真由美・細川季穂	4. 発行年 2019年
2. 出版社 樹村房	5. 総ページ数 76
3. 書名 デジタルアーキビスト入門	

1. 著者名 佐藤正明・谷里佐・加藤真由美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本アーカイブ協会	5. 総ページ数 53
3. 書名 和田家おっらい	

1. 著者名 後藤忠彦・井上透・谷里佐・加藤真由美・林知代・遠藤宣子・加治工尚子・又吉斎・三宅茜巳・新垣さき・眞喜志悦子・大木佐智子・久世均・佐藤正明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 樹村房	5. 総ページ数 177
3. 書名 地域文化とデジタルアーカイブ	

1. 著者名 谷里佐	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岐阜女子大学	5. 総ページ数 27
3. 書名 和田先生と学ぶ白川郷和田家	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----